

事後研記録

6月23日(金) 5限	公開研	教科	3年 社会
授業者	協力者	指導助言者	司会・運営
阿南 幸一 教諭	甘利 弘樹 教授 (大分大学)	小野 智博 指導主事 (大分県教育庁義務教育課)	大場 大塚
学習内容(題材)	大分県活性化プロジェクト —私たちが考える未来構想づくり— 公民 地方自治		
本時のねらい	大分県にとって優先すべき政策案を、「効率」と「公正」などの視点から考えることで焦点化し、表現することができる。		
協議の柱	問いの工夫は、学習者が問いを持ったり、問いを持続、深化していったりするために有効であったか。		

【生徒による発表】

<ul style="list-style-type: none"> ・政策を考える上で、効率、公正と持続可能性という視点が大切だということが分かった。 ・持続可能な社会とは言うが、現状の政策に自分たちの意見を組み込むことが大切だと思った。 ・今日の授業で素晴らしい意見が10個の班から出すことができた。次の時間では、政策を組み合わせることもできると思うので、しっかり考えていきたい。 ・自分の班では、持続可能性を中心に考えた。しかし、持続可能性があればいいというだけでなく、効率や公正の視点が大事だということが分かった。 ・若者の投票率を上げるためにはという視点で問いに取り組んでいった。今後各班が出してくれた意見も参考にしながら学びを深めていきたい。
--

【生徒への質問】

質問	所属・名前	回答
・学ぶ意義についてどのようにとらえているのか？	岡山大学教育学部附属中学校 米林哲郎先生	・これからの社会の一員として、世界の諸課題についてこれからどうしていくべきか考えるために、学んでいるのだと考えている。
・持続可能ではない街づくりとは？ ・なぜ持続可能さが重要だと考えているか。	由布市立 挾間中 三浦祐一先生	・この先もどんどん衰退・消滅していく、都市だけが発展している街づくりだと考えている。 ・持続可能というのはまだ生まれていない世代の人の為に持続可能さというのが重要だと考えている。

【質疑応答】

質問	所属・名前	回答
阿南教諭が考える持続可能な街づくりとは。 阿南教諭は具体的な施策をもっているのか。	由布市立 扶間中 三浦祐一先生	・持続可能な街づくりとは、これからを担う子どもたち、これから生まれてくる世代、高齢者まで長期的な視点で大分県の財政状況を考えながら、どんな街づくりが必要かという視点を持って考えることによって、持続可能な街づくりにつながるのではないかと考えている。 ・宿泊施設が少ないのであれば、空き家のリフォームを行い、民泊施設を作ることなどが考えられるが、市町村の実態によって政策が異なると考えている。
単元計画の3時の大分県の課題を1時間でどのように指導したのか	中津市立豊陽 中学校 高橋 凱先生	・資料作成を行って、大分県を把握させる、足りないところは chromebook を利用して、授業を行った。

【協議の柱：問いの工夫は、学習者が問いを持ったり、問いを持続、深化していったりするために有効であったか。】

意見	所属・名前	回答
政策提言をするということで、実際どうなるのが生徒にとって重要ではないか？	岡山大学教育 学部附属中学校 米林哲郎先生	・日出町で実践したときは、町長に直接提言を行い、成功体験を生徒に味わわせることができた。本校においても、7段階の意思決定過程を通して、生徒の社会参画意識を育てたい。
OPP シートがいい効果を与えているのだと感じた、いつ頃から始めたのか、また単元に対する意識の高まりはあったのか？	日田市立 南部中 森清隆先生	・OPP シートは附属中に赴任してから始めた。振り返りすることによって考えが深まるという視点があるのではないか。評価することで次につながる。

【指導助言： 小野 智博 指導主事（大分県教育庁義務教育課）】

<ul style="list-style-type: none"> ・主権者教育において社会科は重要な役割を担っていることを意識した授業であった。 ・社会的な見方・考え方は働かせるものであって、生徒に身につける力は資質・能力であることを確認して、単元の目標と評価規準を設定すること。 ・今回の授業では、生徒が資料を分析し、地域の課題を解決するための政策を構想した点は良かったが、まとめが「現代社会を捉える枠組み」のようになっていた。「地方自治」の学習としての単元まとめであれば、より具体的で実現可能な政策を構想できるような指導をする必要がある。 ・大項目C「私たちと政治」の導入として今回の授業が行われ、日本国憲法や国会、内閣などの学習を通して、政策をブラッシュアップしていく過程を単元計画に位置付けていれば、提案性のある授業であったといえる。

【協力者： 甘利 弘樹 教授（大分大学）】

- ・ 今回の授業で良かったのは、トールミンモデルを用いて政策案を考え、効率と公正の視点から再度吟味している点良かった。ブラッシュアップができていた。
- ・ 学習指導要領の3つの観点を全うしている授業であった。
- ・ 授業の種類について「政策立案型」、「政策提案・社会参加型」を展開していた。
- ・ 日常経験を政策案の論理に生かしていた。